

動機付けと紙面開発の工夫、開発を！



長野県NIE推進協議会会長

信州大学教育学部教授 澁澤文隆

大人は、新聞を買って読んでいるが、それは読みたくて読んでいるのか、必要性があって読んでいるのか、それとも習慣化して何気なく読んでいるのか。大人用の新聞には、一般紙、専門紙、業界紙、そして趣味や娯楽の色合いの濃い新聞などみられるが、それをどう読み分けているのだろうか。いずれにしても、そうした各種の新聞が発行されているということは、大人は記事の内容に関心があり、記事の内容を読んでいるのであろう。

では、子どもはどうなのだろうか。子どもは、一般に、家にある大人用の新聞を読んでいる。では、新聞のうちどの紙面を読んでいるのだろうか。いったい大人と共用できるのはどんな紙面なのだろうか。年齢にもよるが、テレビでもニュース番組になると関心をもたなくなる小・中学生の場合は、政治や経済に関する紙面は無理であり、せいぜい社会面ということになるであろう。あとはテレビ・ラジオの番組欄やスポーツ、4コマ漫画、そして天気予報に関する欄などが共用できる紙面ということになるだろう。

NIEの活動を推進するに当たっては、こうした状況下にあることを直視し、それを原点にして検討、研究していくことが大切であると考えられる。無理は禁物である。義務、強制が伴うかたちで読ませても、おもしろくない、難しい、面倒くさいなどといった印象を際立たせるだけで、忌避感、抵抗感を助長しても、興味・関心を喚起したり有用性に気づかせたりすることは困難であろう。それは、将来的には新聞離れを促すことになる。

子どもにとって新聞を身近なものにし、新聞を学習に活用していくためには、新聞を読む活動を通して何らかの達成感や効力感を体験し、新聞を読む豊かさを味わい、新聞の魅力に気づくことがポイントになるであろう。それを実現するためには、大きく二つの方向での工夫、努力が必要になってこよう。一つは、子どもの能力等に配慮し、新聞を読みたくなくなるような働きかけを的確に行い、しっかり動機付けを図るといった方向での工夫、努力である。社会の動向への関心を高めることはもちろんのこと、知らない漢字探しや地名探し、見出しやキャッチコピーの作り方など、記事の内容とは異なる観点からの新聞活用も含めて、様々な角度から子どもが新聞を読みたくなるよう、働きかけることである。

他の一つは、新聞自体が子どもにとっても魅力のあるものとなるよう、大人と共用する紙面をより一層創意工夫し、開発、拡大していく方向での工夫、努力である。これまでは、大人にとって魅力のある紙面づくりには努力しても、子どもにとって魅力のある紙面づくりといった観点からの工夫、努力はほとんど行われてこなかったのが現実であろう。それは、大人用の新聞であるから当然といえば当然である。しかし、大人用の新聞を子どもも読むという状況下の中で子どものうちから新聞に親しませ、学習に生かしていくようにするには、そこにもメスを入れる必要がある。子ども用というよりも、子どもが大人と一緒に読むことができるような紙面の開発が期待される。